

## 症 例

## 男子医学生の退学願望とメランコリー親和型性格、メンタルヘルス不調および睡眠時間との関係

井奈波良一<sup>1)</sup>，井上 真人<sup>1)</sup>，広瀬万宝子<sup>1)</sup>，植木 啓文<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>岐阜大学大学院医学系研究科産業衛生学分野

<sup>2)</sup>岐阜大学医学部附属病院精神神経科

(平成 22 年 6 月 15 日受付)

**要旨：**【目的】男子医学生の退学願望とメランコリー親和型性格との関係を明らかにすること。

【方法】A 大学医学部医学科 2 年生および 3 年生の男子 98 名（年齢  $22.1 \pm 3.4$  歳）を対象に，無記名自記式のアンケート調査を行った。

【結果】説明変数に年齢，睡眠時間，メンタルヘルス不調得点を含めて多重ロジスティック回帰分析を行った結果，医学生 of 退学願望には，メランコリー親和型性格 9 項目のうち「義理を重んじる」(オッズ比 0.008,  $P=0.03$ ) および「すぐに自分のせいにしてしまう傾向がある」(オッズ比 0.001,  $P=0.02$ ) の 2 項目だけが有意に関連していた。

【結論】男子医学生の退学願望に対して，メランコリー親和型性格のうち特に「義理を重んじる」および「すぐに自分のせいにしてしまう傾向がある」性格は抑制的に働くと考えられる。

(日職災医誌, 59: 49—52, 2011)

### —キーワード—

医学生, 退学願望, メランコリー親和型性格

近年，わが国では，地方の病院を中心に医師不足が社会問題化している<sup>1)2)</sup>。そこで医師不足解決を目的に大学医学部，医科大学における医師養成数の増加が決定され，2008 年度から実施に移された。しかし医師養成数増加を実質化するためには，医学生の途中退学を防止することも重要な課題のひとつと考えられる<sup>3)</sup>。

職場で最も問題になることの多いメンタルヘルス不調はうつ病であり，休職や離職の重要な要因となっている<sup>3)4)</sup>。うつ状態の症状のひとつに不眠，過眠などの睡眠障害がある<sup>5)</sup>。またうつ病の病前性格として真面目で，几帳面，責任感が強く，他人に気を使うメランコリー親和型性格がよく知られている<sup>6)7)</sup>。

しかし，学生を含めた若年者では，メランコリー親和型うつだけでなく，適応障害圏やむしろディスティミア親和型（あるいは非定型）うつが多い現状にある<sup>8)</sup>。

そこで著者らは，医学生の退学願望とうつの関係を検討する手始めとして，低学年の医学生を対象に，退学願望とメンタルヘルス不調およびメランコリー親和型性格との関係について検討し，医学生の退学願望に対して，メンタルヘルス不調は促進的に働き，メランコリー親和型性格は抑制的に働くことを報告した<sup>3)</sup>。しかし，メランコリー親和型性格が含有するどの人格特性が退学願望抑

制に働くかについてまで追究していなかった。

そこで，今回，男子医学生を対象に，退学願望とメランコリー親和型性格が含有する各人格特性との関係について検討したので報告する。

### 対象と方法<sup>3)</sup>

A 大学医学部医学科 2 年生 78 名および 3 年生 80 名を対象に，無記名自記式のアンケート調査を行った。調査にあたって，倫理的配慮のため，研究の趣旨を文書で示し，アンケート調査への参加は自由意思であること，また得られた結果は学術以外には使用しないことを口頭で説明した。

調査票の内容は，性，年齢，学年，一日平均睡眠時間，人付き合いのパターン（メランコリー親和型性格）調査票 9 項目<sup>6)</sup>，メンタルヘルス不調調査票（「毎日の生活に充実感がない」をはじめとした長時間労働による健康障害防止のための面接指導自己チェック票（例）による 5 項目<sup>8)</sup>）の有無，および退学願望の有無である。

人付き合いのパターンに関する各質問項目に対して，「そうだ」および「まあそうだ」に 1，「ちがう」および「ややちがう」に 0 を得点として与えた。

メンタルヘルス不調に関する各質問項目に対して，「は

表1 男子医学生の退学願望とメランコリー親和型性格との関係

	退学願望		有意確率
	有り (N=13)	無し (N=85)	
人に頼まれると嫌と言えない	9 (69.2)	60 (70.6)	1.00
他人に対して献身的に貢献する	3 (23.1)	52 (61.2)	0.02
熱中しやすい	9 (69.2)	63 (74.1)	0.74
義理を重んじる	8 (61.5)	71 (83.5)	0.12
あやゆる人と親しくすることは、自分にとって大切なことである	4 (30.8)	55 (64.7)	0.03
すぐに自分のせいにしてしまう傾向がある	3 (23.1)	39 (45.9)	0.14
完璧でないと気がすまない	4 (30.8)	34 (40.0)	0.56
自分を抑えてでも、他者から好かれようとする	6 (46.2)	34 (40.0)	0.77
他人の気持ちを察しながら立ち居、振る舞う	6 (46.2)	72 (84.7)	0.00

「そうだ」、「まあそうだ」と回答した人数 (%)

表2 男子医学生退学願望に関連する要因の多重ロジスティック回帰分析

変数 (区分)	オッズ比 (95% 信頼区間)	有意確率
年齢 (歳)	1.098 (0.812 ~ 1.487)	0.54
睡眠時間	0.202 (0.047 ~ 0.877)	0.03
メンタルヘルス不調得点 (点)	11.659 (1.679 ~ 80.980)	0.01
人に頼まれると嫌と言えない (1: そうだ, まあそうだ 0: ちがう, ややちがう)	0.703 (0.052 ~ 9.410)	0.79
他人に対して献身的に貢献する (1: そうだ, まあそうだ 0: ちがう, ややちがう)	0.661 (0.053 ~ 8.209)	0.75
熱中しやすい (1: そうだ, まあそうだ 0: ちがう, ややちがう)	15.921 (0.221 ~ 1,148.418)	0.21
義理を重んじる (1: そうだ, まあそうだ 0: ちがう, ややちがう)	0.008 (0.000 ~ 0.555)	0.03
あやゆる人と親しくすることは、自分にとって大切なことである (1: そうだ, まあそうだ 0: ちがう, ややちがう)	0.968 (0.068 ~ 13.684)	0.98
すぐに自分のせいにしてしまう傾向がある (1: そうだ, まあそうだ 0: ちがう, ややちがう)	0.001 (0.000 ~ 0.319)	0.02
完璧でないと気がすまない (1: そうだ, まあそうだ 0: ちがう, まあそうだ)	0.968 (0.069 ~ 13.489)	0.98
自分を抑えてでも、他者から好かれようとする (1: そうだ, まあそうだ 0: ちがう, ややちがう)	7.734 (0.264 ~ 226.677)	0.24
他人の気持ちを察しながら立ち居、振る舞う (1: そうだ, まあそうだ 0: ちがう, ややちがう)	0.014 (0.000 ~ 1.600)	0.08

い」に1, 「いいえ」に0を得点として与え, その合計点 (以下, メンタルヘルス不調得点) を算出した。

調査は2009年2月中旬に実施し, 127名(男子98名, 女子29名, 2年生65名, 3年生62名)の医学生から回答を得た(回収率80.4%)。このうち, 男子98名(22.1±3.4歳, 2年生52名, 3年生46名)を解析対象とした。なお, 2年生はA大学医学部医学科では比較的厳しいとされる試験の前日, 3年生は直前に試験が無い心理的ストレスが少ないと考えられる時期に実施した。A大学医学部医学科のカリキュラムでは, 2年生の4月初旬から6月末まで解剖学の講義・実習を行い, 以後, 基礎医学, 臨床医学の講義・実習が3年生3学期の2月初旬まで続く。

本報告では, 対象者を, 退学願望が「非常にある」者または「まあまあよくある」者の群 (以下, 退学願望有り群) (13名) と「少しある」者または「全くない」者の群 (以下, 退学願望無し群) (85名) に2分した。

統計学的解析はSPSS第15版を用いて行った。結果は, 平均値±標準偏差で示した。有意差検定は, 一元配置分散分析, t検定,  $\chi^2$ 検定またはFisherの直接確率計算法を用いて行い,  $P < 0.05$  で有意差ありと判定した。退学願望に関連する要因の分析には, 多重ロジスティック回帰分析を用い, 強制投入法にて解析した。なお, 説明変

数として年齢, 睡眠時間, メンタルヘルス不調得点およびメランコリー親和型性格9項目, 計12項目を選択した。なお, メランコリー親和型傾向の強さを表す9項目の合計点とメンタルヘルス不調得点の間には,  $r = -0.089$  で有意な相関はなかった。

## 結 果

表1に男子大学生の退学願望とメランコリー親和型性格との関係を示した。「他人に対して献身的に貢献する」, 「あやゆる人と親しくすることは、自分にとって大切なことである」および「他人の気持ちを察しながら立ち居、振る舞う」に関して, 「そうだ」, 「まあそうだ」と回答した者の割合は, 退学願望無し群が同有り群より有意に高率であった (それぞれ  $P = 0.02$ ,  $P = 0.03$ ,  $P = 0.00$ )。

表2に男子医学生退学願望に関連する要因の多重ロジスティック回帰分析結果を示した。医学生退学願望には, 睡眠時間(オッズ比0.202,  $P = 0.003$ )、メンタルヘルス不調得点(オッズ比11.659,  $P = 0.01$ )、義理を重んじる(オッズ比0.008,  $P = 0.03$ )および「すぐに自分のせいにしてしまう傾向がある」(オッズ比0.001,  $P = 0.02$ )が有意に関連していた。

## 考 察

本研究の低学年の男子医学生では、メランコリー親和型性格9項目のうち、「他人に対して献身的に貢献する」、「あらゆる人と親しくすることは、自分にとって大切なことである」および「他人の気持ちを察しながら立ち居、振る舞う」の3項目に関して、「そうだ」、「まあそうだ」と回答した者の割合は、退学願望無し群が同有り群より有意に高率であった。坂元<sup>7)</sup>は、うつ病の病前性格としてメランコリー親和型性格が含有する幾つかの人格特性のうちでも、その全体像を最も刻印することになる「他者との円満性に一貫して腐心する」その姿は、通常環境にあっても彼らが日々曝される種々の心理社会的ストレスから衝撃を最小限に食い止め、精神的安定を維持するための必死の防衛的な対処行動にほかならないのではないかとしている<sup>3)</sup>。今回調査票に用いたメランコリー親和型性格のうち特に他者との円満性に関係していると考えられる項目は、「他人に対して献身的に貢献する」、「あらゆる人と親しくすることは、自分にとって大切なことである」および「他人の気持ちを察しながら立ち居、振る舞う」の3項目である。したがって、メランコリー親和型性格のうち「他人に対して献身的に貢献する」、「あらゆる人と親しくすることは、自分にとって大切なことである」および「他人の気持ちを察しながら立ち居、振る舞う」性格は、男子医学生の退学願望出現に対して抑制的に働くと考えられる。坂元<sup>7)</sup>は、同時に、そうした防衛努力が無限に繰り返され、いささか疲弊した彼らが、彼らにとっては閾値上の心理社会的ストレスに襲われた場合、その対処スタイルは破綻を迎えることになる。その破綻が彼らに潜むうつ病関連遺伝子を震撼させ、うつ病発症へと至るかもしれないとしている<sup>3)</sup>ことは注目に値する。

しかし、多重ロジスティック回帰分析時に年齢、睡眠時間およびメンタルヘルス不調得点を調整すると、男子医学生の退学願望には、「義理を重んじる」(オッズ比0.008) および「すぐに自分のせいにしてしまう傾向がある」(オッズ比0.001) の2項目だけが有意に関連していた。この結果からは、メランコリー親和型性格のうち特に「義理を重んじる」および「すぐに自分のせいにしてしまう傾向がある」性格が、男子医学生の退学願望出現に対して抑制的に働くと考えられる。

メランコリー親和型性格は、いくつかの性格特性から成り立っているといわれている。そして、ひとつの性格カテゴリーとしてのメランコリー親和型性格は、秩序愛というキーワードで表現される<sup>10)</sup>。つまり、自分のおかれた周囲状況に対する固執とも言い換えることができる。学生にとっては秩序のひとつとして、大学での勉学状況が存在するのであり、このことが、退学を望まないという傾向とメランコリー親和型性格との結びつきを理解さ

せるのかもしれない。

新卒看護師では離職願望の強い者は精神健康度が低く、睡眠が不足していることが指摘されている<sup>11)12)</sup>。本研究の男子医学生でも、退学願望には、メンタルヘルス不調得点(オッズ比11.659) および睡眠時間(オッズ比0.202)も有意に関連していた。これらの結果から、医学生の退学願望に対して、メンタルヘルス不調は促進的に働き、長い睡眠は抑制的に働くと考えられる。

本研究の限界として、以下の点が考えられる。1)調査時点のストレス状況は、2年生が試験前日ということもあり3年生より大きかったと推測されるが、例数不足から学年別の検討を行わなかった。2)メンタルヘルス不調得点として、数ある質問紙法の中から、職場の過重労働によるメンタルヘルス不調発見のために頻りに用いられている「長時間労働による健康障害防止のための面接指導自己チェック票(例)」の一部を使用した。ことなどがあげられる。

いずれにせよ、本結果は、少数例から得られた結果であることから、男子医学生の退学願望とメランコリー親和型性格との関係については、更に検討する必要がある。また、今回、女子医学生については例数不足のために検討できなかった。今後、女子医学生を対象にした検討も期待される。

謝辞：本研究は、一部、平成22年度科学研究費補助金、基盤研究(C) 課題番号21590686により行った。

## 文 献

- 1) 吉村博邦：臨床研修修了後の医師の教育(大学病院)。日医ニュース(on line) 1077：勤務医のページ1—3, 2006.
- 2) 鶴田憲一：医師の過重労働とその背景及び今後の動向について。日本国際医学協会誌 420：4—5, 2006.
- 3) 井奈波良一, 吉安裕樹, 堀 貴光, 他：医学生の退学願望と睡眠時間、メンタルヘルス不調およびメランコリー親和型性格との関係。日職災医誌 58(1)：19—23, 2010.
- 4) 夏目 誠：職場のメンタルヘルス最前線 メンタルヘルス不調者は増加しているかどうか。心身医学 49(2)：101—108, 2009.
- 5) 佐々木司：不眠症・過眠症とうつ病。成人病と生活習慣病 36(3)：314—317, 2006.
- 6) 津田 均：うつとパーソナリティ。精神神経誌 107(12)：1268—1285, 2005.
- 7) 坂元 薫：病前性格。日本臨床 65(9)：1591—1598, 2007.
- 8) 樋口輝彦：多様化するうつ病の病像。日医雑誌 138(11)：2243—2246, 2010.
- 9) 過重労働対策等のための面接指導マニュアル・テキスト等作成委員会：長時間労働による健康障害防止のための面接指導自己チェック票(例)。メンタルヘルスケア実践ガイド第2版。東京、産業医学振興財団, 2008, pp 546—549.
- 10) テレンバッハH：メランコリー。木村 敏訳。みすず書房, 1978.
- 11) 水田真由美, 上坂良子, 辻 幸代, 他：新卒看護師の精神健康度と離職願望。和歌山県立医科大学看護短期大学部紀

要 7 : 21—27, 2004.

- 12) 田邊 愛：新人看護師の睡眠実態と精神健康・離職願望との関連早期離職防止対策に向けた考察. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護研究集録 34 : 210—217, 2009.
- 

別刷請求先 〒501-1194 岐阜市柳戸 1—1  
岐阜大学大学院医学系研究科産業衛生学分野  
井奈波良一

**Reprint request:**

Ryoichi Inaba  
Department of Occupational Health, Gifu University Graduate School of Medicine, 1-1, Yanagido, Gifu, 501-1194, Japan

**Relationship between the Desire to Leave University, and the Melancholy Type Personality, Mental Health and Sleeping Time among Male Medical Students**

Ryoichi Inaba<sup>1)</sup>, Masato Inoue<sup>1)</sup>, Mahoko Hirose<sup>1)</sup> and Hirofumi Ueki<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Department of Occupational Health, Gifu University Graduate School of Medicine

<sup>2)</sup>Department of Psychiatry and Neurology, Gifu University Hospital

This study was designed to evaluate the relationship between the desire to leave university and the melancholy type personality among the second and third year male medical students. A self-administered questionnaire survey on the mentioned determinants was performed among 98 male medical students (age:  $22.1 \pm 3.4$  years) in the A University School of Medicine.

In multiple logistic regression analysis, “I respect duty” (odds ratio, 0.008;  $P = 0.03$ ) and “I tend to attribute it to myself immediately” (odds ratio, 0.001;  $P = 0.02$ ) among melancholy type personality as well as sleeping time (odds ratio, 0.202;  $P = 0.003$ ) and scores of the low quality of mental health (odds ratio, 11.659;  $P = 0.01$ ) were independently associated with the desire to leave university.

The result suggests that especially, “I respect duty” and “I tend to attribute it to myself immediately” among melancholy type personality suppress the desire to leave university among male medical students.

(JJOMT, 59: 49—52, 2011)